優良賞

甘い勇気と苦い勇気



国　　籍　中国
職　　種　介護
実習実施者　医療法人社団博奉会
監 理 団 体　PNJ 事業協同組合

徐　霞
XU XIA

映画の「フォレスト・ガンプ」から、「人生はチョコレートの箱のようなもの。開けてみないと分からない」という名言を幼い頃から耳にしていました。子供の頃は何も理解できなかったが、日本の病院で働くようになった今は、やっとその意義がわかるようになって来ました。人生の箱を開けて、一口チョコレートを食べたら、人によってはそれぞれの味が口の中に溢れます。

現在勤めている病院は、精神的な悩みを抱えている利用者様向けます。彼らの人生のチョコレートはどんな味でしょうか？私達介護士は、利用者様の人生のチョコレートを食べることはないけれど、彼らの情熱という甘味や、苦痛という苦味を肌で感じ取れるようになりました。しかし、介護士も普通の人間で、彼らの苦味を感じる際に心で痛み、苦しんでいます。そのため、苦さと甘みも味わえる介護士の仕事を選んだのは、大きな勇気が必要でした。白い壁、まぶしい光がある病院の一隅で、利用者様は毎日過ごしています。病院は特別なところで、甘い希望と苦い絶望が共存しているところだと認識しました。一か月前、いつも元気がある利用者様Ａ様の部屋に行った時、彼女は急に涙を出しました。介護中の私は驚き、心配しながらＡ様に「どうしましたか？何かあったのですか？」と聞きました。Ａ様は、涙を止められなかった様子で、「病気もあるし…友達もいない…」と答えました。彼女の涙を見た私は悲しくて心配で、「大丈夫、Ａ様は明るくて、皆に愛されていますよ。人それぞれの個性があって、それはただＡ様なりの個性ですからね。ほら、私達もう友達になりましたよ。」と言いました。その後、Ａ様は無口で段々と泣き止みました。仕事が終わった夜中、人を慰めるのが下手な私は、本当にＡ様を助けられたのかを考えて眠れなくなりました。次の朝、心配で焦っている気分でＡ様の部屋に行きました。彼女は私の心配を見抜いていたらしく、その後、Ａ様は「徐さん、ありがとう。もう大丈夫よ。」って笑顔で言ってくれました。この言葉を聞いた私は、ほっとしました。その笑顔は、チョコレートみたいに甘くて、一生忘れられないと思いました。

人々は病院が非常に残酷な所と言い、一瞬で幸せな家庭を壊すこともあります。私は介護士になる前は、恐怖心もありました。しかし、病院に来てから、利用者様の苦痛と情熱を感じながら、緊張と焦りを少しずつ和らげられました。このような生活に慣れ始め、利用者様の無邪気な様子が好きでいつも感動しています。時間の流れとともに、私は異国の病院で働く勇気を持てるようになりました。今の自分は、この甘くて苦い人生のチョコレートを味わえるのは、自分に勇気があったからと堂々と言えます。利用者様の人生のチョコレートも、私の人生のチョコレートも、もっともっと甘くさせるために、勇気と希望を持って明日へと頑張ります。